

2025 年度

事 業 報 告

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

公益財団法人 東電記念財団

目 次

概要	1
1. 公益目的事業の実施状況	2
(1) 研究助成（基礎研究）	2
(2) 研究助成（一般研究）	5
(3) 国際技術交流援助	9
(4) 奨学金給付	11
(5) 研究助成（基礎研究）新規採択テーマの概要	13
2. 運営体制の充実をはかるための取組	16
(1) 理事会・評議員会の開催	16
(2) 透明性の確保	16
(3) ガバナンス体制の充実	17
3. 特記事項	18
(1) 株式保有が 20%以上 50%以下となる株式会社の概要	18
4. 参考資料	19
(1) 2025 年度役員・評議員（2026 年 3 月 31 日現在、50 音順・敬称略）	19
(2) 2025 年度審査委員（2026 年 3 月 31 日現在、50 音順・敬称略）	19
(3) 2025 年度寄付金	19
5. 事業報告附属明細書	21

概要

当財団は、昭和61年度に寄附行為（定款）を変更して以降、助成事業を拡大し、平成22年6月の公益財団法人の認定後も電気・エネルギー分野の創造的な基礎研究および一般研究の推進、若手研究者の育成等を目的とした国際技術交流援助および奨学金の給付を行ってきた。

この結果、2025年度末には、贈呈者の累計1,709名、贈呈総額35.4億円を超えるに至った。

今後も、公益財団法人に求められる事業運営の更なる透明性の確保とガバナンスの強化に努めるとともに、効率的な財産運用による収支向上を図り、助成事業を着実に継続していく。

〈2025年度採択助成事業〉

2025年度の助成事業は、4月に財団ホームページで公表したほか、全国95大学の理工学系の学部・附置研究所などに周知した。

事業内容	2025年度新規採択件数	2025年度新規採択額
研究助成（基礎研究）	8件	75,000,000円
研究助成（一般研究）	14件	14,000,000円
国際技術交流援助	22件	9,299,000円
奨学金給付	4件	5,400,000円
2025年度採択額合計		103,699,000円

1. 公益目的事業の実施状況

(1) 研究助成（基礎研究）

研究助成（基礎研究）は、優れた若い研究者が自由な発想・創意工夫で基礎研究に取り組み、世の中で活躍できる機会を提供することを主旨としている。

本年度の新規採択については、応募総数 39 件の中から、審査委員会（委員長：井村順一 東京科学大学・教授）において、書面審査 2 回および面談審査 1 回による厳正な審査を経て、2026 年 3 月の理事会にて 8 件の採択を決定した。（表⑨）

また、2023 年度以降の採択者 12 件の継続助成についても面談による中間審査を行った結果、全件において助成継続が適当であるとの結論を得た。（表⑩No. 5～7, 9～17）

なお、研究期間が 2025 年度で終了した 8 件のうち、審査委員会にて著しい成果が認められた 2 件に関しては、研究期間の延長と助成金の増額が行われた。（表⑩No. 4, 8）

この他、6 件が本年度で研究期間を終了した。（表⑪）

- ① 対 象： 電気・エネルギー関連の産業・生活に関わるエネルギー技術を向上させる基礎的な研究
- ② 助 成 額： 総額 500～1,000 万円以内/件（研究期間：2～3 年）
- ③ 助成期間： 2026 年 4 月～申請研究期間最終年度 3 月
- ④ 申込資格： 国内の大学、または同等の研究機関に所属する若手研究者。（原則として 40 歳程度まで）※学生は対象外。
- ⑤ 募集期間： 2025 年 4 月 1 日～9 月 30 日
- ⑥ 応募総数： 39 件
- ⑦ 審査方法： 書類審査 2 回と面談審査 1 回の計 3 回の審査を実施
- ⑧ 審査過程：
 - ・ 2025 年 9 月 30 日： 募集締切、第一次審査開始
 - ・ 2025 年 10 月 30 日： 審査結果回収、集約
 - ・ 2025 年 11 月 12 日： 第 1 回審査委員会（日本工業倶楽部）にて、第一次審査通過者 19 名を選定
 - ・ 2025 年 11 月 17 日： 第二次書類審査開始
 - ・ 2025 年 12 月 14 日： 審査結果回収、集約
 - ・ 2026 年 1 月 14 日： 第 2 回審査委員会（Zoom ミーティング）にて、第二次審査通過者 11 名を選定した他、2025 年度助成終了者の成果報告会、助成継続者 4 名の面談審査を実施
 - ・ 2026 年 1 月 30 日： 第 3 回審査委員会（Zoom ミーティング）にて、11 名を対象に面談による三次審査を行い、理事会への答申のため、最終採択候補者 8 名を選定、その他助成継続者 8 名の面談審査を実施
 - ・ 2026 年 3 月 10 日： 第 2 回通常理事会（日本工業倶楽部）にて、2025 年度基礎研究助成新規贈呈対象者 8 名が承認された。

⑨ 2025 年度研究助成（基礎研究）新規採択者一覧

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
						(年度)	(円)	
1	飯田隆人	大阪大学	准教授	前後非対称ジャイロ式波力発電による全周波数・完全エネルギー吸収理論の確立	2	2026	3,000,000	10,000,000
						2027	7,000,000	
2	CHIU WAN TING	東京科学大 学	准教授	高効率水素冷却を実現する革新的磁気冷凍材料の開発と持続可能な物質循環システムの構築	3	2026	4,800,000	8,000,000
						2027	1,600,000	
						2028	1,600,000	
3	車 一宏	東京大学	助教	ダイヤモンドナノ構造を用いた高効率フォノン制御技術の開発	2	2026	6,300,000	9,000,000
						2027	2,700,000	
4	小林裕一郎	大阪大学	助教	廃硫黄を用いた室温合成硫黄ポリマーの創製とその電池材料応用に関する基礎研究	2	2026	6,300,000	9,000,000
						2027	2,700,000	
5	長澤 剛	東京科学大 学	准教授	高温電極・触媒界面の定量化を実現する原子ラベル可視化解析基盤	3	2026	7,000,000	10,000,000
						2027	1,500,000	
						2028	1,500,000	
6	藤井勇介	九州工業大 学	准教授	水素社会の実現に向けた超高出力密度ベアリングレスモータの開発	2	2026	6,980,000	10,000,000
						2027	3,020,000	
7	武道宏平	岐阜大学	テニユア トラック 助教	入力直列方式を用いた高電圧SR-SABコンバータのフィードバック制御系の構築	3	2026	5,000,000	9,000,000
						2027	2,850,000	
						2028	1,150,000	
8	李 恒	中央大学	助教	任意形状へ塗れる光熱電変換イメージセンサによる高架送電線のオンサイトなミリ波・赤外CT非破壊検査	2	2026	6,000,000	10,000,000
						2027	4,000,000	
2025年度研究助成（基礎研究）新規採択額合計								75,000,000

No. 2, 3, 4, 6, 7 採択決定時から年度額配分変更

⑩ 2025 年度研究助成（基礎研究）継続採択者一覧

採択 年度	No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
							(年度)	(円)	
2021	1	石田洋平	九州大学	准教授	Inorganic Leafの創生による太陽光エネルギー変換	5	2022(済)	7,000,000	13,000,000
							2023(済)	3,000,000	
							2024(増済)~2026	3,000,000	
2021	2	迫田将仁	北海道大学	助教	新奇サイズ効果を用いた金属ベーススイッチングデバイスの試作	6	2022(済)	4,200,000	13,000,000
							2023(済)	3,850,000	
							2024(済)	1,950,000	
							2025(増済)~2027	3,000,000	
2022	3	田中裕也	東京科学大 学	助教	熱電変換材料としての有機金属分子素子の開発	5	2023(済)	7,000,000	13,000,000
							2024(済)	3,000,000	
							2025(増済)~2027	3,000,000	

採択年度	No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
							(年度)	(円)	
2022	4	宮町俊生	名古屋大学	准教授	単位格子極限計測による界面スピンオービトロニクスの開拓	6	2023(済)	5,200,000	12,000,000
							2024(済)	2,800,000	
							2025(済)	1,000,000	
							2026(増)~2028	3,000,000	
2023	5	奥村宏典	筑波大学	助教	波長可変の真空紫外 固体発光素子の開発	3	2024(済)	1,375,000	7,875,000
							2025(済)	5,500,000	
							2026	1,000,000	
	6	小林 駿	電力中央研究所	主任研究員	高効率・低過電圧なCO2還元触媒の反応機構解明と開発	3	2024(済)	2,300,000	9,250,000
							2025(済)	4,500,000	
							2026	2,450,000	
	7	寺尾 悠	東京大学	特定准教授	超電導磁気軸受を用いた極低温液化ガス中における高効率・高信頼のポンプ用同期モータの研究	3	2024(済)	3,500,000	10,000,000
							2025(済)	4,150,000	
							2026	2,350,000	
	8	永岡 章	宮崎大学	准教授	200℃以下の排熱を有効活用する新規熱電変換材料の開発とデバイス応用	5	2024(済)	6,000,000	13,000,000
							2025(済)	4,000,000	
							2026(増)~2028	3,000,000	
9	西川原理仁	名古屋大学	准教授	積層造形法による省エネルギー気液二相熱輸送デバイスの開発	3	2024(済)	4,000,000	7,875,000	
						2025(済)	2,000,000		
						2026	1,875,000		
2024	10	朝原 誠	岐阜大学	准教授	CO2フリー水素発電に向けた天然ガス熱分解装置の開発	2	2025(済)	7,000,000	10,000,000
							2026	3,000,000	
	11	太田竜一	北海道大学	准教授	レーザー冷却を用いたマクロな固体材料の遠隔熱制御技術の開発	2	2025(済)	3,000,000	10,000,000
							2026	7,000,000	
	12	江目宏樹	山形大学	教授	熱工学と界面化学の融合によるプラズマモニクピッカリングエマルジョン太陽熱利用技術の開発	3	2025(済)	4,000,000	8,580,000
							2026	3,000,000	
							2027	1,580,000	
	13	酒田陽子	名古屋大学	教授	金属錯体の動的特性を活かした新規多孔性分子結晶群の創製とイオン貯蔵材料への展開	3	2025(済)	4,000,000	10,000,000
							2026	3,000,000	
							2027	3,000,000	
14	陳 君怡	東京科学大学	准教授	可視および近赤外光応答型新規ヨーク-シェルナノ構造光触媒の開発	3	2025(済)	4,000,000	10,000,000	
						2026	4,000,000		
						2027	2,000,000		
15	根岸信太郎	神奈川大学	准教授	需要家資源を活用した配電網の電圧・電力潮流管理手法の創出	3	2025(済)	4,180,000	6,450,000	
						2026	1,210,000		
						2027	1,060,000		
16	山下愛智	東京都立大学	助教	超高性能を目指すハイエントロピー型熱電変換材料の創出	2	2025(済)	7,000,000	10,000,000	
						2026	3,000,000		
17	和佐泰明	早稲田大学	准教授	電力市場メカニズムの理論的解析と深層学習が与える影響	3	2025(済)	6,430,000	9,970,000	
						2026	2,360,000		
						2027	1,180,000		

No. 1 : 研究期間1年延長

⑩ 2025 年度研究助成（基礎研究）終了者一覧

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
						(年度)	(円)	
1	都甲 薫	筑波大学	准教授	高移動度IV族半導体をベースとした高速フレキシブル・トランジスタの開発	6	2020(済)	3,000,000	13,000,000
						2021(済)	3,900,000	
						2022(済)	3,100,000	
						2023(増済)~2025	3,000,000	
2	大島逸平	東北大学	助教	液化ガスの微粒化機構解明	3	2023(済)	6,600,000	10,000,000
						2024(済)	2,700,000	
						2025(済)	700,000	
3	JAVAID Saher	金沢学院大学	准教授	Power Flow Coloringに基づく、分散電源と蓄電システムの活用に向けた ロバストかつ安全な電力フロー制御に関する研究	3	2023(済)	3,380,000	7,000,000
						2024(済)	2,300,000	
						2025(済)	1,320,000	
4	岡 弘樹	東北大学	准教授	分子配列制御による高い電荷移動度をもつn型有機半導体材料の開発	2	2024(済)	7,000,000	10,000,000
						2025(済)	3,000,000	
5	程 建鋒	東北大学	准教授	ナトリウム金属固体電池用の酸化物-ハイドロボレート圧縮型固体電解質	2	2024(済)	6,050,000	10,000,000
						2025(済)	3,950,000	
6	山口 晃	東京科学大学	テニユアトラック助教	水熱電気化学による二酸化炭素変換	2	2024(済)	3,500,000	10,000,000
						2025(済)	6,500,000	

(2) 研究助成（一般研究）

研究助成（一般研究）は、広く電気・エネルギーの産業技術に係わる重要な、あるいはユニークな技術的課題を発掘し、当該領域の技術を通じて関係者の関心を引き起こすことを狙いとしている。

本年度の新規採択については、応募総数 50 件の中から、審査委員会による予備審査および本審査を慎重かつ厳正に行った結果、2026 年 2 月に 14 件の採択を決定した。（表⑨）

また、継続 3 件についても着実な成果を確認し、引き続き助成することを決定した。（表⑩）

この他、16 件が本年度で研究期間を終了した。（表⑪）

- ① 対 象： 電気・エネルギーの分野における課題を解決する独創性があり、関係者の関心を集める研究・活動
- ② 助 成 額： 100 万円以内/件（研究期間：1～2 年）
- ③ 助成期間： 2026 年 4 月～申請研究期間最終年度 3 月
- ④ 申込資格： 国内の大学、または同等の研究機関に所属していること。（役職・年齢に制限なし）
- ⑤ 募集期間： 2026 年 4 月 1 日～6 月 30 日
- ⑥ 応募総数： 50 件
- ⑦ 審査方法： 予備と本審査申込書を各審査資料として、2 種類・2 段階の書面審査を実施

⑧ 審査過程：

- ・2025年6月30日：募集締切、予備審査開始
- ・2025年8月4日：審査結果回収、集約
- ・2025年8月11日：各審査委員からの審査結果集約に基づき、審査委員長が予備審査通過者25名を選定
- ・2025年8月27日：予備審査結果の理事長決裁後、各応募者に結果通知
- ・2025年11月4日：本審査申込書提出締切、審査開始
- ・2025年12月7日：本審査結果回収、集約
- ・2026年1月14日：2025年度第2回審査委員会にて、本審査結果集約を基に最終候補14件を選定
- ・2026年1月26日：本審査結果の理事長決裁後、各応募者に結果通知

⑨ 2025年度研究助成（一般研究）新規採択者一覧

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
						(年度)	(円)	
1	飯田和昌	日本大学	教授	中性子照射に強靱な次世代超伝導線材の基礎設計	2	2026	500,000	1,000,000
						2027	500,000	
2	石井慶子	中央大学	准教授	ナノファイバーを内包した超薄型ベイパーチャンバーの創生	1	2026	1,000,000	1,000,000
3	石山隆光	筑波大学	特任助教	新規Yb系化合物薄膜の物性制御とフレキシブル熱電デバイス応用	2	2026	500,000	1,000,000
						2027	500,000	
4	磯辺 篤	東京科学大学	助教	新たな多孔質有機構造体の創出による高性能スーパーキャパシタの開発	1	2026	1,000,000	1,000,000
5	上原明恵	琉球大学	助教	小規模離島系統におけるスマートコミュニティを活用した最適運用に関する研究	1	2026	1,000,000	1,000,000
6	桶川雄生	東京科学大学	博士後期課程1年	IGBTの非多重直列接続を達成するヒューズ限流式直流遮断器の開発	2	2026	450,000	1,000,000
						2027	550,000	
7	桑原央明	芝浦工業大学	准教授	異形配管に対応する可変剛性制御型移動ロボットの開発	1	2026	1,000,000	1,000,000
8	高橋一匡	長岡技術科学大学	准教授	加速器駆動中性子源による高レベル放射性廃棄物核変換処理に向けたリチウムイオンビーム形成に関する研究	1	2026	1,000,000	1,000,000

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
						(年度)	(円)	
9	平野 琴	産業技術総 合研究所	研究員	音エネルギー精密評価に向けた光共振器型音圧計測装置の ノイズ低減	2	2026	500,000	1,000,000
						2027	500,000	
10	藤田鈴香	香川高等専 門学校	技術職員	Minecraftを用いた放射線教 育教材の開発と教育効果の測 定	1	2026	1,000,000	1,000,000
11	松永 航	京都大学	助教	電磁界制御を利用した電磁誘 導試験におけるエッジ効果抑 制手法	1	2026	1,000,000	1,000,000
12	宮下匠人	北海道大学	助教	熔融塩電解を用いたジルコニ ウムとハフニウムの高効率分 離手法の開発	2	2026	750,000	1,000,000
						2027	250,000	
13	山口堅三	阿南工業高 等専門学校	准教授	再生可能エネルギー応用に向 けた動的光制御メカニカルプ ラズモニクス偏向素子の開発	2	2026	500,000	1,000,000
						2027	500,000	
14	吉澤明菜	九州大学	助教	高耐久性CO2還元触媒となる 担持金ナノ粒子触媒の含浸法 による触媒調製法の確立	1	2026	1,000,000	1,000,000
2025年度研究助成（一般研究）新規採択額合計								14,000,000

⑩ 2025 年度研究助成（一般研究）継続採択者一覧

採択 年度	No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
							(年度)	(円)	
2024	1	原 康祐	奈良先端科 学技術大学 院大学	准教授	連続成膜プロセスによる正孔輸送層/BaSi2太 陽電池の開発	2	2025(済)	670,000	1,000,000
							2026	330,000	
	2	余 浩	東北大学	助教	核融合炉のダイバータ への適用を目指した革 新的酸化銅分散強化銅 合金の創製	2	2025(済)	700,000	1,000,000
							2026	300,000	
	3	劉 洪芝	北海道大学	助教	地域融雪を考慮したCO2 ランキンサイクル発電 システムの開発	2	2025(済)	500,000	1,000,000
							2026	500,000	

⑪ 2025 年度研究助成（一般研究）終了者一覧

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職 (2026.3末現在)		研究題目	研究 期間 (年)	年度別助成予定額		採択額 (円)
						(年度)	(円)	
1	阿部駿佑	信州大学	特任助教	未利用熱の高度利用に資する潜熱蓄熱スラリーの粒子微小化と熱輸送性能向上	2	2024(済)	500,000	1,000,000
						2025(済)	500,000	
2	佐藤宏亮	東京科学大学	助教	テトラアザフルバレン構造を活用した高電位有機正極材料の創出	2	2024(済)	600,000	1,000,000
						2025(済)	400,000	
3	沈 迅	大阪大学	助教	コネクテッドカーにおける省エネルギーのための階層的車両群協調制御手法	2	2024(済)	300,000	900,000
						2025(済)	600,000	
4	西岡季穂	京都大学	助教	電析法を用いた表面特性制御による高活性電極触媒の精密設計	2	2024(済)	500,000	1,000,000
						2025(済)	500,000	
5	李 恒	中央大学	助教	エネルギー輸送設備の全方位検査に向けた光熱電撮像シートによる広帯域CT技術の創製	2	2024(済)	500,000	1,000,000
						2025(済)	500,000	
6	今林弘毅	福井大学	助教	β -Ga203デバイスの金属電極-半導体界面における熱劣化特性の解明	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
7	上野那美	立教大学	助教	Carbonate系Li電解質における溶媒和構造と電子状態の相関	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
8	岡村嘉大	東京大学	助教	ワイルド半金属によるシフト光起電力効果を用いた高効率光電変換	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
9	近藤慎司	大阪大学	助教	「電気化学分解学」の構築：電気化学分解過程の多角的オペランド観測	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
10	高見 剛	追手門学院大学	教授	全固体フッ化物イオン電池に向けた本質的フッ素空孔を有するフッ化物イオン伝導体の創製	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
11	武田洋平	大阪大学	准教授	空間を介した電荷移動を鍵とする省エネ有機発光材料の創製と有機エレクトロニクスへの応用	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
12	張 麗華	北海道大学	准教授	二酸化炭素の資源化による高機能金属ナノ炭酸塩の創製とメタン生成	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
13	辻 流輝	筑波大学	助教	ゲームチェンジャーに成り得る無機-炭素材料を基軸とした超高耐久ペロブスカイト太陽電池の開発	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
14	富田夏奈	東京科学大学	助教	分相ナノ組織への窒化物結晶分散による高熱伝導ガラス基板の開発	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
15	横田有為	東北大学	准教授	性能と量産性を両立したナノ構造化熱電バルク体の開発	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000
16	芳野 遼	東北大学	助教	酸化還元電位の精密制御が可能な水車型二核錯体を用いたアンモニア酸化触媒の系統的開発	1	2025(済)	1,000,000	1,000,000

(3) 国際技術交流援助

国際技術交流援助は、電気・エネルギー分野の国際的な技術交流を促進させることで、我が国の産業の進展と国民生活の向上に寄与することを目的としている。

本年度の採択については、応募総数上期 50 件・下期 30 件の中から、審査委員会での厳正なる審査を行った結果、上期 12 件・下期 12 件を採択した。(表⑥)

- ① 対象： 広範な電気関連の産業・生活に係わる技術を向上させる意図を持った、基礎的な調査・研究、成果発表、共同研究などのための海外渡航
- ② 援助対象： 渡航費・宿泊費・会議登録費の一部
- ③ 実施時期： <上期>2025 年 8 月～2026 年 4 月に渡航予定のもの
<下期>2026 年 4 月～2026 年 10 月に渡航予定のもの
- ④ 申込資格： 所属・役職に制限なし。学生は、応募時点で国内の大学院生であること。
- ⑤ 募集期間： <上期>2025 年 4 月 1 日～5 月 31 日
<下期>2025 年 6 月 1 日～2026 年 1 月 31 日

【上期】

- A) 応募総数： 50 件
- B) 審査方法： 申込書・会議開催案内・論文要旨等を基に審査を実施
- C) 審査過程：
 - ・2025 年 5 月 31 日： 募集締切、審査開始
 - ・2025 年 7 月 6 日： 審査結果回収、集約
 - ・2025 年 7 月 9 日： 各審査委員からの審査結果集約に基づき、審査委員長が採択者 12 名を選定し、選定結果を各委員に通知
 - ・2025 年 7 月 10 日： 採択者の決定に関する理事長決裁後、各応募者に結果通知

【下期】

- A) 応募総数： 30 件
- B) 審査方法： 申込書・会議開催案内・論文要旨等を基に審査を実施
- C) 審査過程：
 - ・2026 年 1 月 31 日： 募集締切、審査開始
 - ・2026 年 3 月 1 日： 審査結果回収、集約
 - ・2026 年 3 月 5 日： 各審査委員からの審査結果集約に基づき、審査委員長が採択者 12 名を選定し、選定結果を各委員に通知
 - ・2026 年 3 月 6 日： 採択者の決定に関する理事長決裁後、各応募者に結果通知

⑥ 2025 年度上期国際技術交流援助採択者

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職、学年 (採択時)		会議名・研究滞在先	渡航先	採択額 (円)
1	李 垂範	信州大学	助教	Daegu Gyeongbuk Institute of Science and Technology	韓国	195,000
2	数野未結*	上智大学	修士1年	第17回超電導応用欧州会議	ポルトガル	※321,000
3	北川 魁人	徳島大学	修士2年	第16回エコマテリアル国際会議	タイ	206,000
4	郭 妍伶	長岡技術科学大学	助教	ゴードン・リサーチ・カンファレンス (高温腐食)	アメリカ	320,000

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職、学年 (採択時)		会議名・研究滞在先	渡航先	採択額 (円)
5	WU ZEYU	九州大学	助教	第17回欧州応用超伝導学会	ポルトガル	400,000
6	ZAMPA Alexandre	東京大学	特任研究員	欧州応用超伝導会議	ポルトガル	400,000
7	Thanigan Nakkhong	東京農工大学	博士後期課程 1年	2025年環太平洋化学会議	アメリカ	314,000
8	永田歌寧*	京都大学	修士2年	SPIE光工学+光子学	アメリカ	※500,000
9	野島渉平*	東北大学	博士後期課程 2年	ヨーロッパ応用超伝導会議	ポルトガル	※400,000
10	藤原千隼	東北大学	博士後期課程 1年	遷移元素の励起状態に関する国際 会議 (ESTE 2025)	ポーランド	456,000
11	真山彩葉子	同志社大学	修士1年	KTH-Royal Institute of Technology	スウェーデン	500,000
12	森迫祥吾	相模中央化学 研究所	副主任研究員	環太平洋国際化学会議2025	アメリカ	397,000
2025年度上期国際技術交流援助採択額合計						4,409,000

※他財団採択等の理由により採択後辞退

⑦ 2025年度下期国際技術交流援助採択者

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職、学年 (採択時)		会議名・研究滞在先	渡航先	採択額 (円)
1	小川 広太郎	工学院大学	博士後期課程 3年	欧州MRS (Materials Research Society) 2026年春季大会	フランス	430,000
2	木梨 裕太	筑波大学	修士2年	第27回制御核融合装置におけるプラズマ表面相互作用に関する国際 会議	ドイツ	300,000
3	後藤 彩乃	東京農工大学	博士後期課程 1年	第31回 プラズマ物理・技術シン ポジウム	チェコ	360,000
4	近藤 慎司	大阪大学	助教	19th International Symposium on Polymer Electrolytes	スペイン	470,000
5	高橋 護	三重大学	助教	乱流およびせん断流現象に関する 国際会議	ドイツ	430,000
6	鳥居 真人	大阪公立大学	博士後期課程 3年	第25回固体イオニクス国際会議	シンガポール	350,000
7	中田 佳吾	東京大学	修士2年	IEEE国際磁気学会	イギリス	430,000

No.	氏名 (50音順)	所属機関・役職、学年 (採択時)		会議名・研究滞在先	渡航先	採択額 (円)
8	中谷 利毅	東北大学	修士2年	MOF2026	アメリカ 合衆国	470,000
9	野々山 颯太	名古屋大学	修士1年	第24回 ガス放電とその応用に関する国際会議	イギリス	380,000
10	藤本 眞音	東京大学	修士1年	University of Groningen滞在研究	オランダ	500,000
11	横田 信英	静岡大学	准教授	第30回半導体レーザ国際会議	フィンラ ンド	340,000
12	渡邊 篤人	東京科学大 学	博士後期課程 2年	2026年 欧州材料科学会 春季講演 会	フランス	430,000
2025年度下期国際技術交流援助採択額合計						4,890,000

(4) 奨学金給付

奨学金給付は、電気・エネルギー分野の学術・産業を担う優秀な人材育成に資するために、関連する分野を専攻する大学院博士後期課程の学生を対象としている。

本年度の新規募集は、応募総数 35 名の中から、審査委員会において厳正に審査を行った結果、8 月に候補者 4 名を内定し、2026 年 3 月の理事会にて全員を正式に採択した。(表⑨)

また、給付継続者についても修学状況を確認の上、同理事会で引き続き 4 名に給付することを決定した。(⑩参照)

この他、5 名が給付を終了した。(表⑪)

- ① 対 象： 電気・エネルギー分野の学術・産業に関連する学問を専攻する大学院博士後期課程学生
- ② 給 付 額： 月額 5 万円
- ③ 給付期間： 2025 年 4 月～博士課程後期最短終業年限
- ④ 申込資格：
 - ・2026 年度に国内の大学院博士後期課程への進学を希望する者
 - ・既に博士後期課程 1 年もしくは 2 年に在学中の者
 - (いずれも 2026 年 4 月 1 日時点で 28 才未満であること)
- ⑤ 募集期間： 2025 年 4 月 1 日～6 月 30 日
- ⑥ 応募総数： 35 件
- ⑦ 審査方法： 書類審査
- ⑧ 審査過程：
 - ・2025 年 6 月 30 日： 募集締切、審査開始
 - ・2025 年 8 月 4 日： 審査結果回収、集約
 - ・2025 年 8 月 15 日： 審査集約結果を基に、審査委員長が採択候補者 4 名を選定
 - ・2026 年 3 月 10 日： 第 2 回通常理事会（日本工業倶楽部）にて、2025 年度奨学金給付新規贈呈対象者 4 名が承認され決定

⑨ 2025年度奨学金給付新規採択者

No.	氏名 (50音順)	所属・専攻・学年 (2026年3月現在)			年度別 給付予定額		給付 予定総額 (円)
					(年度)	(円)	
1	石橋拓真	琉球大学	大学院理工学研究科総合知能工学専攻	博士後期課程1年	2026	600,000	1,200,000
					2027	600,000	
2	梶原君円	筑波大学	数理物質科学研究群応用理工学学位プログラム	博士後期課程1年	2026	600,000	1,200,000
					2027	600,000	
3	嵯峨稔己	京都大学	大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻	博士後期課程1年	2026	600,000	1,200,000
					2027	600,000	
4	横山尋斗	東京大学	大学院工学系研究科電気系工学専攻	修士2年	2026	600,000	1,800,000
					2027	600,000	
					2028	600,000	
2025年度奨学金給付新規採択額合計							5,400,000

⑩ 2025年度奨学金給付継続者

採択 年度	No.	氏名 (50音順)	所属・専攻・学年 (2026年3月現在)			年度別 給付予定額		給付 予定総額 (円)
						(年度)	(円)	
2023	1	上田聡一郎	琉球大学	大学院理工学研究科工学専攻電気エネルギー・システム制御プログラム	博士後期課程2年	2024(済)	600,000	1,800,000
						2025(済)	600,000	
						2026	600,000	
2023	2	西野 択	東京科学大学	工学院システム制御系システム制御コース	博士後期課程2年	2024(済)	600,000	1,800,000
						2025(済)	600,000	
						2026	600,000	
2024	3	鈴木温也	東京科学大学	工学院電気電子系電気電子コース	博士後期課程1年	2025(済)	600,000	1,800,000
						2026	600,000	
						2027	600,000	
2024	4	村上柊香	京都大学	大学院工学研究科化学工学専攻	博士後期課程1年	2025(済)	600,000	1,800,000
						2026	600,000	
						2027	600,000	

⑪ 2025年度奨学金給付期間終了者

No.	氏名 (50音順)	所属・専攻・学年 (2026年3月現在)			給付 期間 (年)	年度別 給付額		給付総額 (円)
						(年度)	(円)	
1	北澤太基	奈良先端科学技 術大学院大学	先端科学技術研究科 先端科学技術専攻	博士後期 課程3年	3	2023(済)	600,000	1,800,000
						2024(済)	600,000	
						2025(済)	600,000	
2	丹野祐次郎	早稲田大学	先進理工学研究科電 気・情報生命専攻	博士後期 課程3年	2	2024(済)	600,000	1,200,000
						2025(済)	600,000	
3	鳥居真人	大阪公立大学	大学院工学研究科物 質化学生命系専攻応 用化学分野	博士後期 課程3年	2	2024(済)	600,000	1,200,000
						2025(済)	600,000	
4	西尾龍乃介	東京科学大学	工学院機械系原子核 工学コース	博士後期 課程3年	3	2023(済)	600,000	1,800,000
						2024(済)	600,000	
						2025(済)	600,000	
5	吉田謙伸*	山形大学	大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専 攻	博士後期 課程1年	3	2025(済)	150,000	150,000
						2026(辞退)	0	
						2027(辞退)	0	

*併給不可の他財団奨学金に採択されたため、2025年6月末で受給辞退

(5) 研究助成（基礎研究）新規採択テーマの概要

(敬称略・50音順・所属役職2026.3末現在)

① 「前後非対称ジャイロ式波力発電による全周波数・完全エネルギー吸収理論の確立」

大阪大学・准教授 飯田隆人

我が国は四方を海で囲まれ海洋由来のエネルギー資源が豊富であることから、現在開発が進む洋上風力発電に次いで、将来的には波力発電も有望である。しかし、現状の波力発電は総発電量が乏しく、未だ商用化に至っていない。本研究ではこの問題を解決するためにジャイロ式波力発電に着目する。申請者はこれまでの研究から、ジャイロ式波力発電は浮体の形状を前後非対称とすることで、全ての周波数の波に対して完全に波エネルギーを吸収できると見出した。本研究では、この全周波数・完全エネルギー吸収が可能なことを理論的に証明することを目的とする。これが達成できれば、停滞する波力発電開発のブレイクスルーになると期待できる。

② 「高効率水素冷却を実現する革新的磁気冷凍材料の開発と持続可能な物質循環システムの構築」
東京科学大学・准教授 CHIU WAN TING

本研究は、水素社会実現の基盤となる高効率水素冷却を目指し、革新的磁気冷凍材料の新規開発と新たな物質循環技術の構築に挑戦する。従来の冷却技術は損失が大きく、実用化の障壁となる。本研究では、磁場駆動機能性材料に独自の「磁場・応力同時印加法」を開発する。組織制御によりエントロピー変化 ΔS_m を最大化する点に新規性がある。さらに、低欠陥単結晶微粒子を基盤とした超低エネルギー型アップサイクル循環法を開発し、従来の高CO₂排出循環工程を根本から覆す。現在、国内外で水素製造は進展する一方、冷却材料は未開拓であり、本研究はこの課題を打破し、脱炭素社会・カーボンニュートラル達成に大きな産業的・社会的インパクトをもたらす。

③ 「ダイヤモンドナノ構造を用いた高効率フォノン制御技術の開発」

東京大学・助教 車 一宏

固体中のフォノンを制御するフォノンエンジニアリングは、量子情報処理からエネルギーハーベスティングに至る幅広い分野で重要な基盤技術として注目されている。フォノン制御の母体材料として、優れた弾性波伝搬特性や高い熱伝導率を有するダイヤモンドの活用が期待されており、ダイヤモンド中の不純物欠陥である色中心とフォノンとの相互作用も活用することで、新たな機能を持つフォノンデバイスへの創出が期待される。本研究では、ダイヤモンド微細加工技術を開発することで、ダイヤモンド上にフォノンの高精度制御が可能なフォノンナノデバイスを実現し、新規フォノン物理の探求と高効率フォノン集積デバイスの創出を目指す。

④ 「廃硫黄を用いた室温合成硫黄ポリマーの創製とその電池材料応用に関する基礎研究」

大阪大学・助教 小林裕一郎

現行のリチウム硫黄電池に使用されている硫黄ポリマーは、180℃以上の高温で合成しており、この高温条件のための電力を生み出すために枯渇資源である原油を使用しているのに加えて、二酸化炭素をはじめとした温室効果ガスを排出している。持続可能な社会構築(SDGs)に即してリチウム硫黄電池を作製するためには硫黄ポリマーの合成温度を下げる必要がある。研究の最終目的は硫黄ポリマーを用いたリチウム硫黄電池の社会実装とし、本申請ではその中で最も重要な低環境負荷な硫黄ポリマーの合成法、具体的には硫黄ポリマーの室温合成法を開発し、得られた硫黄ポリマーの電池特性を評価することを目標とする。

⑤ 「高温電極・触媒界面の定量化を実現する原子ラベル可視化解析基盤」

東京科学大学・准教授 長澤 剛

固体酸化物形燃料電池(SOFC)や触媒反応システムなど、高温における物質輸送と化学反応を伴う系においては多孔質構造を有する電極や触媒が広く用いられるが、その内部における物質輸送や反応場分布の実験的定量化は容易ではない。本研究では、SOFC電極と自動車用三元触媒を対象とし、高温反応のクエンチと同位体ラベリングによる電極・触媒内部現象の可視化を基に輸送反応分布の定量的な評価を目指す。実電極やモデル気固界面に形成される化学種分布を高解像度同位体イメージングにて捉えると共に、マルチスケールシミュレーションと機械学習を融合したデータ解析手法を構築することにより、輸送反応場を定量化する。

⑥ 「水素社会の実現に向けた超高出力密度ベアリングレスモータの開発」

九州工業大学・准教授 藤井勇介

燃料電池向け電動コンプレッサが盛んに研究されており、特に航空機用モータでは、8kW/kgの高出力密度が要求されている。この用途では超高速回転に加えて、圧縮空気への異物混入が許されない。ゆえに、機械ベアリングによる回転軸支持では、速度限界・クリーン性という点で問題となる。本研究では回転軸を非接触磁気支持しながらトルクを発生する「超高出力密度ベアリングレスモータの開発」を目的とする。「超高速回転化」と「アルミニウム巻線による軽量化」を統合することで、出力80kW、回転数8万rpm、出力密度20kW/kg（従来値を大幅に更新）を目指す。本研究は、大容量ブロー、排熱回収ターボ発電機などにも適用可能であり、水素社会の実現に大きく貢献する。

⑦ 「入力直列方式を用いた高電圧 SR-SAB コンバータのフィードバック制御系の構築」

岐阜大学・テニユアトラック助教 武道宏平

カーボンニュートラル実現に向けて、電気自動車(EV)の普及が進められている。EVにおいては、バッテリーの充電時間短縮が求められており、350kW 急速充電器の開発が進められている。急速充電器には、高電圧電源を用いた大電力用の高周波絶縁型DC-DC コンバータの適用が期待される。申請者は、高電圧電源向けのDC-DC コンバータとして、入力直列方式を用いた SR-SAB(Secondary-Resonant Single-Active-Bridge)コンバータを提案している。本研究では、提案回路の実用に向けた基礎技術として、提案回路のフィードバック制御系を構築することを目的とする。提案回路のフィードバック制御系を理論構築、シミュレーションおよび実験により確立し、実験における制御特性まで明らかにする。

⑧ 「任意形状へ塗れる光熱電変換イメージセンサによる高架送電線のオンサイトなミリ波-赤外CT非破壊検査」

中央大学・助教 李 恒

本研究では、ペーストとして所望箇所へ自由に塗れるミリ波・テラヘルツ・赤外トモグラフィセンサを創出し、高架送電線に対するオンサイト非破壊検査の実証を目的とする。全国各地で高架送電線の老朽化が進んでおり、持続的な非破壊検査技術を確立することは急務の課題となっている。ミリ波・テラヘルツ・赤外という光が送電線検査（ゴム被膜・金属素線・多様な異物）に効果的である点に着目し、送電線に対してペーストとして塗れるセンサを確立することにより、高所等の難所環境に制約されることなく、代表的な非破壊検査手法であるトモグラフィをオンサイト形式で送電線へ適用する。

2. 運営体制の充実をはかるための取組

(1) 理事会・評議員会の開催

① 2025 年度 臨時評議員会

日 時： 2025 年 4 月 1 日（火）
場 所： みなし開催
提案事項： 新任理事 1 名の選任について

② 2025 年度 第 1 回通常理事会

日 時： 2025 年 5 月 19 日（月） 11 時 00 分 ～ 12 時 00 分
場 所： 一般社団法人日本工業倶楽部 4 階第三会議室
議 題： 第 1 号議案 2024 年度事業報告について
第 2 号議案 2024 年度決算について
第 3 号議案 基本財産等の運用方針について
第 4 号議案 2025 年度定時評議員会について
第 5 号議案 評議員選定委員会について
報告事項 1 資産運用状況について
報告事項 2 理事長・常務理事の業務執行状況について

③ 2025 年度 定時評議員会

日 時： 2025 年 6 月 10 日（火） 11 時 00 分 ～ 11 時 45 分
場 所： 一般社団法人日本工業倶楽部 4 階第二会議室
議 題： 第 1 号議案 2024 年度事業報告について
第 2 号議案 2024 年度決算について
報告事項 1 資産運用状況について
報告事項 2 2025 年度事業計画および予算について
報告事項 3 茅陽一評議員辞任に伴う新任評議員 1 名について

④ 2025 年度 評議員選定委員会

日 時： 2025 年 6 月 10 日（火） 11 時 45 分 ～ 12 時 00 分
場 所： 一般社団法人日本工業倶楽部 5 階第三小談話室
議 題： 第 1 号議案 新任評議員 1 名の選定について

⑤ 2025 年度 第 2 回通常理事会

日 時： 2026 年 3 月 10 日（火） 11 時 00 分 ～ 12 時 00 分
場 所： 一般社団法人日本工業倶楽部 4 階第三会議室
議 題： 第 1 号議案 2025 年度研究助成金（基礎研究）の贈呈について
第 2 号議案 2025 年度奨学金の贈呈について
第 3 号議案 指定正味財産から一般正味財産への振替について
第 4 号議案 2026 年度事業計画及び収支予算について
報告事項 1 理事長・常務理事の業務執行状況の報告について

(2) 透明性の確保

事業の質を改善するための自主的な取組を実施した。

① 研究助成者へのヒアリングによる事業改善

2024年度研究助成（基礎研究）に採択となった研究助成（基礎研究）8名の研究室を訪問し、研究の進捗、当財団への要望・改善事項等について、ヒアリングを行った。今後の公募の在り方等のご意見をいただいた。研究助成のさらなる価値創造の中で検討を進めていく。

2025年10月16日（木）	北海道大学・准教授	太田 竜一	札幌キャンパス
2025年10月20日（月）	東京都立大学・助教	山下 愛智	南大沢キャンパス
2025年10月21日（火）	早稲田大学・准教授	和佐 泰明	西早稲田キャンパス
2025年10月29日（水）	山形大学・教授	江目 宏樹	米沢キャンパス
2025年11月26日（水）	東京科学大学・准教授	陳 君怡	すずかけ台
2025年11月27日（木）	名古屋大学・教授	酒田 陽子	東山キャンパス
2025年12月12日（金）	神奈川大学・准教授	根岸 信太郎	横浜キャンパス
2026年1月20日（火）	岐阜大学・准教授	朝原 誠	工学部

② 成果報告書のフィードバックによる事業改善

2025年度が助成の最終年度となる研究助成（基礎研究）、研究助成（一般）、国際技術交流援助、奨学金給付終了者から提出された報告書から、今後の事業運営の改善につながる事項を確認した。今年度は該当事項なし。

(3) ガバナンス体制の充実

ガバナンス体制の点検を実施した。

- ・新公益法人制度施行に伴う定款変更の必要性
- ・評議員、理事、監事就任のための確認書への新たな確認事項の必要性 等

3. 特記事項

(1) 株式保有が 20%以上 50%以下となる株式会社の概要

「公益法人の設立許可及び指導監督基準」等により、公益法人が保有する営利企業の株式のうち、全株式の 20%以上 50%以下を保有する株式については、毎事業年度の事業報告書に、事業年度末現在の当該営利企業の概要を記載することが規定されている。

上記規定に該当する企業(関連会社)の概要は次の通りである。

- ①名 称 東光建物株式会社
- ②事務所の所在地 東京都千代田区有楽町一丁目 7 番 1 号
- ③資 本 金 6,000 万円
- ④事 業 内 容 土地、建物の取得処分及び賃貸借、並びにこれに附帯する業務
- ⑤役員の数および代表者の氏名
 - 役 員 4 名
 - 代表者 杉田裕市
- ⑥従 業 員 の 数 2 名
- ⑦財団が保有する株式の数および全株式に占める割合
 - 保有数 60 万株
 - 割 合 50%
- ⑧保 有 す る 理 由 設立初期に寄付者より当財団の事業運営のために寄附された。
- ⑨当該株式の取得状況

取得年月日	株 式 数	備 考
昭和 18 年 1 月 20 日	5,000 株	寄 附
昭和 27 年 2 月 1 日	35,000 株	無償増資
昭和 29 年 5 月 29 日	10,000 株	無償増資
昭和 30 年 6 月 1 日	50,000 株	無償増資
昭和 33 年 12 月 1 日	300,000 株	無償増資
昭和 36 年 11 月 1 日	200,000 株	無償増資
平成 8 年 4 月 1 日	600,000 株	無償増資
平成 12 年 10 月 1 日	△600,000 株	譲 渡
合 計(2026 年 3 月 31 日現在)	600,000 株	

⑩当財団と東光建物株式会社との関係（人事、資金、取引等）

- ・当財団の常務理事・蘆立修一が、東光建物株式会社の取締役役に就任している。
- ・当財団は、事務所として有楽町電気ビル北館 1210 区の一部を同社から賃借している。

4. 参考資料

(1) 2025 年度役員・評議員 (2026 年 3 月 31 日現在、50 音順・敬称略)

理事長	山口 博	(公社)日本電気技術者協会会長
常務理事	蘆立 修一	(公財)東電記念財団
理事	石山 敦士	早稲田大学名誉教授
	神成 文彦	慶応義塾大学名誉教授
	西澤 俊夫	元東京電力(株)
	松本洋一郎	東京大学名誉教授
	山口 学	元(株)関電工会長
監事	白羽 龍三	元新日本有限責任監査法人常務理事
	武井 優	元東京電力(株)副社長
評議員	伊賀 健一	東京科学大学名誉教授・元学長
	鈴木 教洋	(株)日立製作所アドバイザー、(株)日立総合計画研究所取締役会長
	藤嶋 昭	東京理科大学名誉教授・スペースシステム創造研究センター特別顧問 東京大学名誉教授
	正田 英介	(公財)鉄道総合技術研究所フェロー、東京大学名誉教授
	榎本 晃章	元東京電力(株)副社長
	山地 憲治	(公財)地球環境産業技術研究機構理事長

(2) 2025 年度審査委員 (2026 年 3 月 31 日現在、50 音順・敬称略)

委員長	井村 順一	東京科学大学理事・工学院システム制御系教授
委員	岡田 健一	東京科学大学工学院電気電子系教授
	神谷 利夫	東京科学大学国際先駆研究機構 元素戦略 MDX 研究センターセンター長・教授
	近藤圭一郎	早稲田大学理工学術院理工学術院長補佐 (学生, 研究担当) 先進理工学部電気・情報生命工学科教授
	斎木 敏治	慶応義塾大学理工学部電気情報工学科教授
	染谷 隆夫	東京大学大学院工学系研究科教授
	長汐 晃輔	東京大学工学系研究科アテリアル工学専攻教授
	藤井 康正	東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻教授

(3) 2025 年度寄付金

指定寄付金として、以下の 16 法人から 3150 万円、また 1 個人から 1 万円の総額 3, 151 万円の寄付を頂いた。

- ・株式会社関電工 様
- ・東光建物株式会社 様
- ・株式会社東京エネシス 様
- ・株式会社東光高岳 様
- ・住友電気工業株式会社 様
- ・古河電気工業株式会社 様
- ・日本ガイシ株式会社 様

- ・ 日本工営エネルギーソリューションズ株式会社 様
- ・ 東芝エネルギーシステムズ株式会社 様
- ・ 株式会社TME I C 様
- ・ 一般財団法人関東電気保安協会 様
- ・ KDD I 株式会社 様
- ・ 株式会社三英社製作所 様
- ・ 株式会社明電舎 様
- ・ 株式会社ダイヘン 様
- ・ OBARAエネルギーコンポーネンツ株式会社 様
- ・ 個人 様

5. 事業報告附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないため、事業報告附属明細書は作成していない。